

災害の備えは万全ですか？

地震と大雨・洪水から  
いのちを守る！『そなえマップ』および災害対策に関するアンケート集計報告  
川和地区連合町内会

## アンケート回収

減災・防災の確認のための解説を含めた『減災・防災アンケート』を各戸配付しました。ご家族で各質問について話し合い、回答し、解説を読んで行動確認を共有することを前提として、地域の状況や居住者の意識を把握するために実施されたものです。

町内会・自治会	配布	回収	回収率
川和町内会	2,392	429	18%
川和団地	280	20	7%
都筑ヶ丘住宅	—	—	—
都筑が丘第2	463	87	19%
川和台	600	86	14%
二の丸	250	42	17%
フォーチュンスクエア都筑中山	66	0	—
不明	—	88	—
合計	4,051	744	18%

今回の回答は744（配布4,051）で回収率は18%と過去のアンケートで最低の結果となりました。（2011年に実施された第1回アンケートの回収率は67%でした）これは災害に関する認識が薄れてきたこと、各設問に対応（回答）を掲載したため回収の必要がないと思われて回収されなかったこと想定しています。また、スマホ回答が可能なQRコードを掲載したため、スマホのみの回答と勘違いされたこともあったと考えられます。

## 問1 あなたは、『そなえマップ』を知っていますか？

	回答	回答率
1. 持っている	487	65.4%
2. 知っているが持っていない	133	17.9%
3. いいえ	124	16.7%
合計	744	100.0%

アンケート結果から、『そなえマップ』を所持している方が回答者の約2/3でした。また回答1及び2の合計から『そなえマップ』の認知度は高く大多数が知っていました。2011年に実施された第1回アンケートの持っている/知っているとの合計回答率は12%でしたので、認知度は増大しています。

『そなえマップ』は川和連合町内会の地図に防災の危険性と危険地域の範囲、避難時に支障がある障害物（鉄塔、木造住宅、石碑、自動販売機、塀、電柱トランス等）などが記載されています。



『そなえマップ』は、川和連合町内会HPに掲載されています。

<https://kawawarengou.com/>

## 問2 あなたがお住まいの住宅の構造は何ですか？

	回答	回答率
1. 木造建築物	596	80.1%
2. 鉄筋・鉄骨建築物	127	17.1%
3. 不明	21	2.8%
合計	744	100.0%

アンケート結果から、木造建築物にお住まいの方が大多数でした。2017年に実施された第3回アンケートの木造建築物の回答率は76%でしたので、ほとんど変化はありませんが、2000年以降の新築/改築が増えていることから耐震構造の木造建築物が増えていることと想定できます。

しかし、飯神・淡路大震災(平成7年1月17日発生)で火災面積が大きかった神戸市長田区では地震後発生した火災のうち半数近く件が延焼拡大しました。これは木造建築物が密集していたことが延焼拡大の主要原因と指摘されています。被災時に再通電時に電気器具を確認する等火災を発生させないことが重要です。

また、熊本地震(平成28年4月4日発生)で震源地に近い益城町の木造建築物被害の半数が倒壊又は大破の被害と報告されています。木造建築物の耐震設計・補強をするとともに、建物の点検・保守が生命を守る大規模地震での倒壊を防ぐことになり、命を守ります。

- ☞ 横浜市のガイドラインで50m範囲内に木造建築物が20棟以上建っており、全建築物の3/4以上を占め建っている場合に火災類焼危険があり、また、建築基準法で昭和56年以前の木造建築物は、大規模地震で倒壊の恐れがあります。確認してください。

## 問3 あなたは、『いっとき避難』の場所及び目的を知っていますか？

	回答	回答率
1. はい	461	62.0%
2. 場所は知っている	143	19.2%
3. いいえ	140	18.8%
合計	744	100.0%

アンケート結果から、地震災害が発生した時の『いっとき避難場所』の目的/場所を知っている方が回答者の約2/3でした。また回答1及び2の合計の81%から認知度は高く大多数が知っていました。2011年に実施された第1回アンケートのはい/知っているとの合計回答率は35%でしたので、認知度は増大しています。

『いっとき避難場所』は、地震災害が発生した場合に最初に避難する場所です。

- ☞ 地震災害が発生した時の『いっとき避難場所』は、身の安全を確保するために一時的に避難する公園や空き地等です。災害時は『いっとき避難場所』に集合し、近隣の方の安否を確認して下さい。「地域防災拠点」及び「広域避難場所」は、自宅に戻れないまたは生命・身体を守るための二次避難場所です。災害が発生した場合に最初に避難する場所は『いっとき避難場所』ですのでご注意ください。

- ① 『いっとき避難所』では町内会・自治会の責任者の指示の元、点呼し、安否確認します。
- ② 避難は徒歩で、持ち物は最小限にします。
- ③ 危険な場所に近づかないで避難します。(『そなえマップ』で事前に確認)
- ④ 更に危険が迫った場合は、町内会・自治会の責任者の指示により「地域防災拠点」へ避難します。

問4 ご家庭で、避難等の災害時の行動を話し合っていますか？

	回答	回答率
1. はい	452	60.8%
2. いいえ	273	36.7%
3. 回答なし	19	2.6%
合計	744	100.0%

アンケート結果から、ご家庭で、避難等の災害時の行動を話し合っておられる方が約2/3で、過去アンケートより微増となっています。平成27年度県民ニーズ調査「家族との連絡方法を確認している」が34%であり、県平均に比べると非常に高い結果となっています。しかし、2011年に実施された第1回アンケートのはいと合計回答率は63%でしたので、認知度は微減しています。

☞ 緊急時の備蓄、家族との連絡、初期活動等の災害発生時に取る行動は、事前に家族と話し合い・確認ください。

問5 緊急時の備蓄(常備品を含め)が用意してありますか?(複数回答可)

項目	回答	回答率
1. 懐中電灯	636	85.5%
2. 飲食物	582	78.2%
3. ラジオ	458	61.6%
4. 日用品	414	55.6%
5. 常備薬・衣料品	359	48.3%
6. トイレ	19	2.6%
7. その他	63	8.5%
8. 何も用意していない	43	5.8%

アンケート結果から、懐中電灯、飲食物、ラジオ、日用品は世帯のほぼ過半数が所持しています。その他で複数回答が、キャンプ用品、蓄電池/発電機、小銭等の回答がありました。また何も用意していない世帯が6%おられました。2011年に実施された第1回アンケートの何も用意していないとの回答率は20%でしたので、緊急時の備蓄は大幅に増大しています。今回新たに質問したトイレの備蓄は少なく簡易なものでも良いので備蓄を検討ください。避難袋を用意することまた下記の項目にある必要なものや災害時に以外に役立つものを再点検してください

非常持出品を準備しましょう

一次持出品リスト（避難するときに最初に持ち出すもの）

◆水：飲料水は大人一人当たり1日3リットルが目安。炊事、洗濯、トイレ等の生活用水確保のため、風呂の水

◆食料：簡単な調理で食べられる缶詰、レトルト食品、切りもち、チョコレート、梅干し、チーズ調味料等

◆トイレパック：凝固剤等は一人当たり5パックが目安。

◆貴重品：現金（小銭も準備）、通帳類、証書類、身分証明書、健康保険証、免許証、印鑑、家及び車の鍵、靴

◆携帯ラジオ、携帯電話：予備電池、予備電源

◆懐中電灯：一人一人用意、予備電池と電球

◆救急薬：マスク、ガーゼ、消毒薬等外傷薬、胃腸薬、風邪薬等内服薬、常備薬、口腔内ケア剤、とげぬき等

◆非常食・飲料水：直ぐに食べることができるカンバン、缶詰等、紙皿、コップ、ナイフ、缶切り

◆燃料・その他：コンロ、携帯(簡易)トイレ、生理用品、ビニール袋、ラップ、新聞紙、使い捨てカイロ等

◆その他：着替え、タオル、ティッシュペーパー、ビニールシート、予備の眼鏡、靴(ガラスから足裏保護で必ず用意する)

(乳幼児のいる場合 ミルク、ほ乳ビン、おむつ等)

(要介護者のいる場合：おむつ、障害者手帳、常備薬等)

二次持出品リスト(復旧までの最低3日分、できれば1週間分)

注 その他家庭の状況等に応じて必要なものを準備

問 6 大きな揺れを感じる地震が発生した場合、あなたはまずどのような行動をとりますか?(複数回答可)

	地震災害時の初期行動	回答	回答率
1.	頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机に隠れる	651	87.5%
2.	ガラス窓や吊り下がっている照明から離れる	449	60.3%
3.	電気ブレーカー、ガス元栓を閉止して火の始末をする	360	48.4%
4.	車運転中はスピードを落とし徐行する	335	45.0%
5.	落石やがけ崩れが発生しそうな場所から急いで離れる	306	41.1%
6.	外へ飛び出し危険を退避する	92	12.4%
7.	その他	25	3.4%
8.	回答なし	2	0.3%

アンケート結果から、大多数が「頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机に隠れる」と回答しており、神奈川県ガイドラインに合致しています。次に「ガラス窓や吊り下がっている照明から離れる」が選択されており、身の安全に必要な行動と言えます。更に「電気ブレーカー、ガス元栓を閉止して火の始末をする」が選択されており、二次災害の火災を防ぐため揺れが収まってからの行動になります。室外にいる場合は、危険場所(落石やがけ崩れが発生しそうな場所やビルの下で落下物が想定される場所)から急いで離れること及び自動車の運転中の場合は、急ブレーキを掛けないで徐行し左側に停止することに留意ください。なお「外へ飛び出し危険を退避する」は、身の安全が確認できてから退避することが肝要です。

神奈川県ガイドライン



『そなえガイド(地震)』に災害時の注意点がまとめられています。

- ① まず落ち着いて身の安全を確保する。
- ② あわてず冷静に火災を防ぐ。
- ③ 避難のテクニックを習得する。
- ④ 正しい情報を入手する。
- ⑤ 協力しあって救出・応急手当する。

☞ 「緊急地震速報」から強い揺れを事前に入手して、強い揺れを感じた時はあわてて外へ飛び出さず、丈夫な机の下などに隠れ身の安全を守る行動を採って下さい。揺れが収まった時点で火元、避難口を確保してください。

『そなえガイド（地震）』は、川和連合町内会 HP に掲載されています。

<https://kawawarengou.com/%E3%81%9D%E3%81%AA%E3%81%88%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89/>



問 7 大雨/洪水の危険が発生した場合、あなたどのような行動をとりますか?(複数回答可)

	大雨・洪水災害時の初期行動	回答	回答率
1.	横浜市の避難に係わる指示が発令した時点で避難する	440	59.1%
2.	動きやすい服、軍手、ヘルメット、運動靴等を準備する	324	43.5%
3.	避難情報が発令されていなくても、避難を開始する	89	12.0%
4.	自動車で避難する	24	3.2%
5.	その他	10	1.3%
6.	住んでいる地域では浸水の心配がないので避難しない	242	32.5%
7.	回答なし	6	0.8%

アンケート結果から、「住んでいる地域では浸水の心配がないので避難しない」と「回答無し」を除いた大多数が「横浜市の避難に係わる指示が発令した時点で避難する」と回答しており、横浜市の避難情報・警戒レベル 4 の行動です。次に「動きやすい服、軍手、ヘルメット、運動靴等を準備」が選択されており、横浜市の避難情報・警戒レベル 3 の行動です。更に「避難情報が発令されていなくても、避難を開始する」が選択されており、大雨の情報を確認して避難時期を失なわないような行動になります。横浜市の避難情報で確認して適格な行動をとるようにしてください。その他の複数回答で、高齢者に声掛けする、2 階以上に避難する等の回答がありました。なお「自動車で避難する」は、『そなえガイド(土砂災害・洪水)』に記載されているように冠水 10cm で自動車の運転に支障があり自動車では避難しないことが肝要です。

なお、洪水ハザードマップによると浸水の恐れがある地域は川和町内会地域に限定されています。

➡ 大雨・洪水の場合、天気予報や大雨/洪水警報・注意報に注意して、避難情報により避難場所、階上等へ避難して下さい。動きやすい靴(長靴は不可)、服装等で避難して、冠水時の道路のマンホール・側溝に注意してください。

『そなえガイド（地震）』は、川和連合町内会 HP に掲載されています。

<https://kawawarengou.com/%E3%81%9D%E3%81%AA%E3%81%88%E3%83%9E%E3%83%83%E3%83%97/>



問 8 あなたのご家庭で、日常の見守り・声かけ援助を望みますか？

	回答数
1. はい	51
2. 災害時のみ	237
3. いいえ	439
4. 回答なし	17
合計	744

51人の方が日常の見守りを希望されています。すでに見守り・声かけ対象者の方もおられますが川和連合ふれあいたいが訪問し、その可否を確認をした時点で見守りを実施することとします。また災害時にはお互いに助け合うことが肝心です。「いっとき避難場所」で安否確認をした上で必要な手助けをすることになります。

☞ 「はい」と回答された方は、川和連合ふれあいたいのボランティアも若しくは事務局が見守り・声かけの確認にお伺いし、川和連合ふれあいたいの活動に生かしました。ご協力ありがとうございました。

アンケートにご協力ありがとうございました。

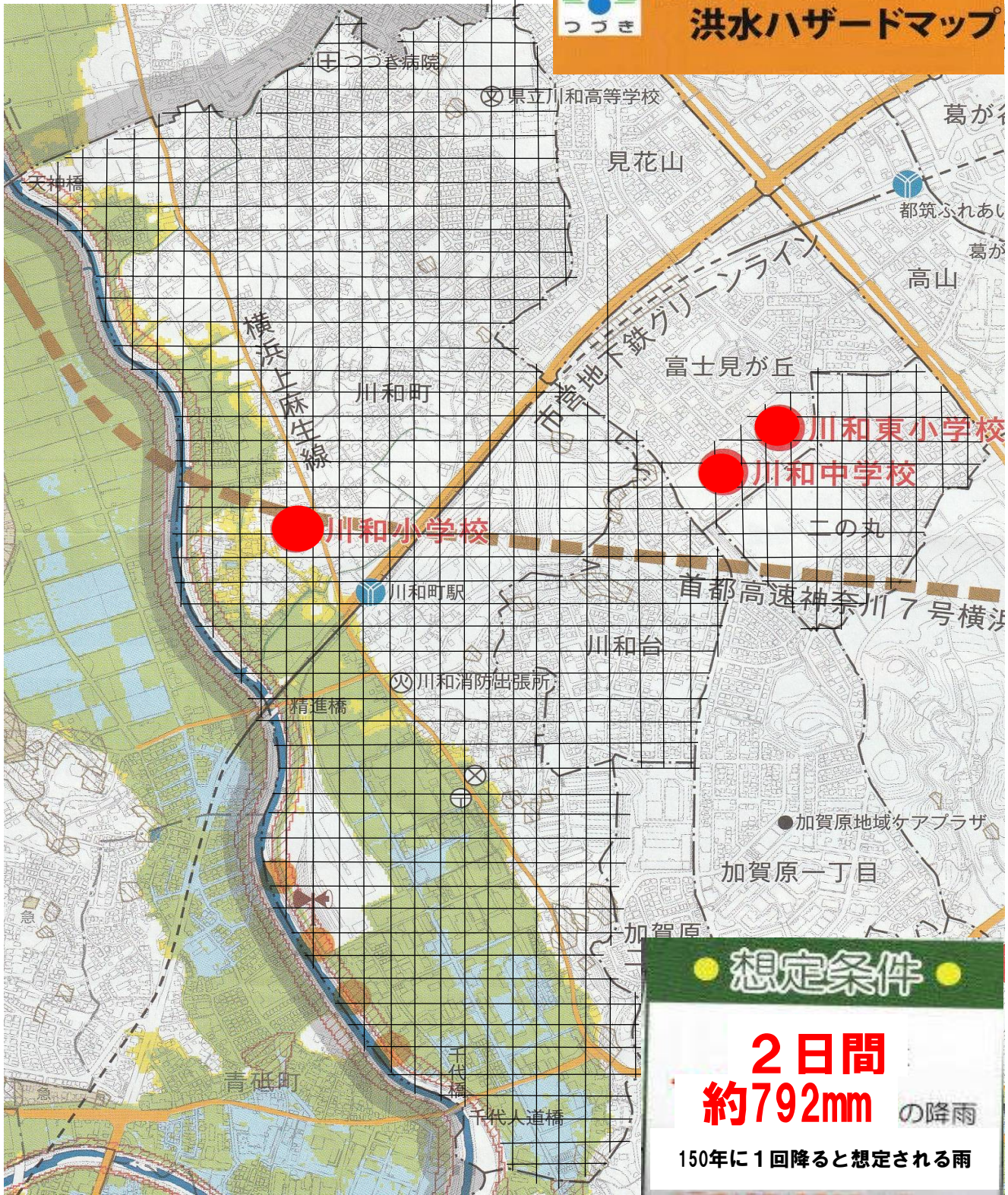
減災・防災に対する意見や町内会・自治会、地域のことなど、ご自由にご記入頂きました。

- 以前訓練に参加した際に、全然足りないと思いました。本来は、自分の家も含め、各自用意しておかなければならないのですが、防災拠点に、もう少し避難食を増やしてほしい。
- 広域火災に備えて、各世帯に消火器具を配布してほしい。
- アンケートの実施をありがとうございます。これからはもっと減災と防災を意識して行こうと思います。
- 住宅地の中に防犯カメラの設置を希望します。
- 隣近所は勿論、町内その他にお住まいの人々と顔見知りになるよう努める必要があります。
- 公園のトイレが少ないと感じています。対応は難しいと思いますが、設置の検討をお願いします。
- 地域の防災に関する取り組みが不十分と感じています。



都筑区

洪水ハザードマップ



想定条件

2日間  
約792mm の降雨

150年に1回降ると想定される雨



- 4.0m 2階の軒下までつかる程度
- 3.0m
- 2.0m 1階の軒下までつかる程度
- 1.0m おとなの腰までつかる程度
- 0.5m おとなのひざまでつかる程度

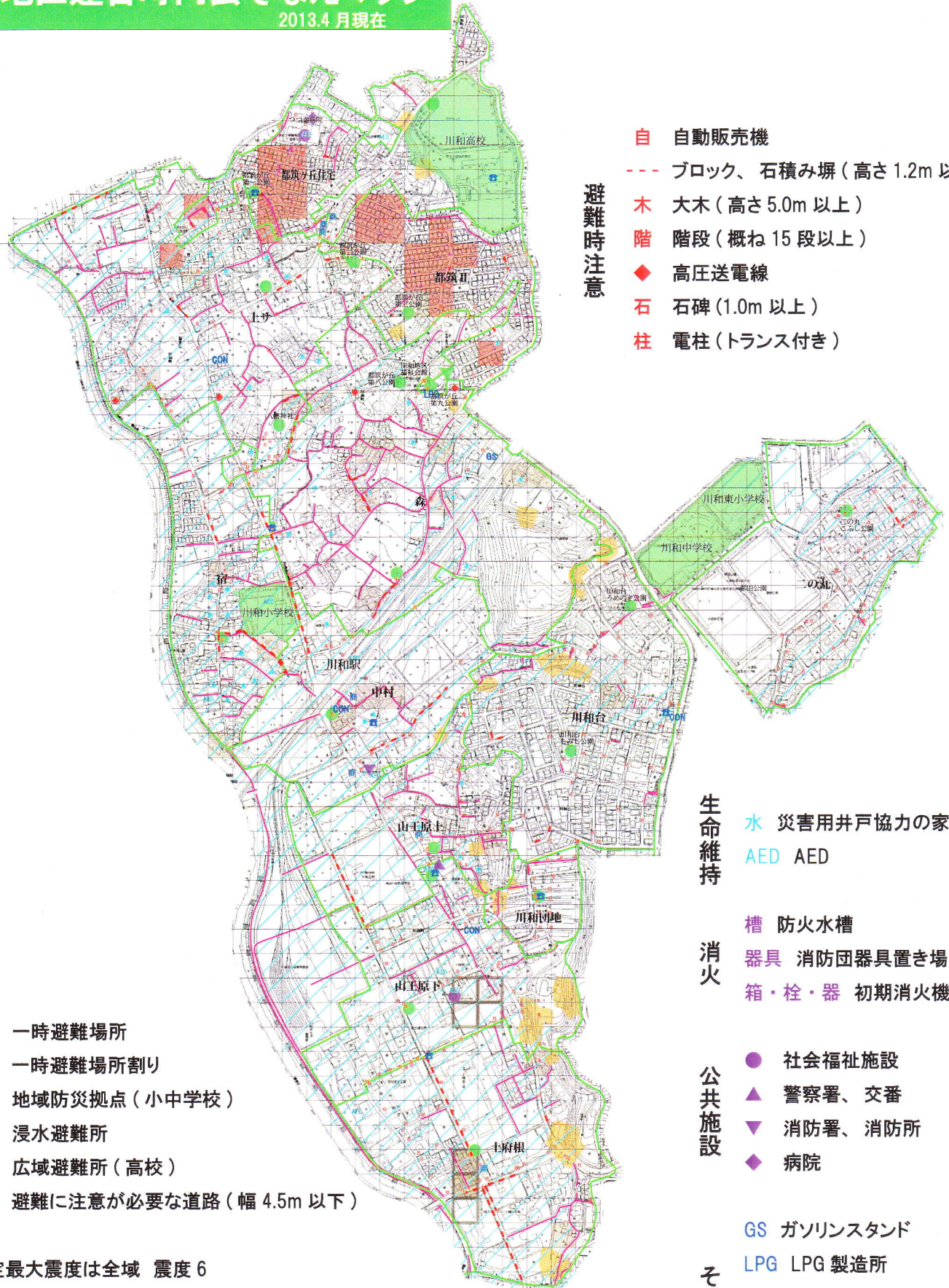
洪水ハザードマップは、想定し得る最大規模の降雨（2日間約792mm）を前提として、川の水があふれた場合や堤防が壊れた場合をシュミュレーションにより予測したものです。雨の降り方によっては、浸水区域や浸水深さが異なることがあります。

実測最大雨量は1時間に横浜市では平成26年10月5-6日にかけて352mmです。（出展：都筑区浸水ハザードマップ）

注：● 指定緊急避難場所

# 川和地区連合町内会そなえマップ

2013.4月現在



- 避難時注意**
- 自 自動販売機
  - ブロック、石積み塀（高さ1.2m以上）
  - 木 大木（高さ5.0m以上）
  - 階 階段（概ね15段以上）
  - ◆ 高圧送電線
  - 石 石碑（1.0m以上）
  - 柱 電柱（トランス付き）

- 生命維持**
- 水 災害用井戸協力の家
  - AED AED
- 消火**
- 槽 防火水槽
  - 器具 消防団器具置き場
  - 箱・栓・器 初期消火機具

- 公共施設**
- 社会福祉施設
  - ▲ 警察署、交番
  - ▼ 消防署、消防所
  - ◆ 病院

- その他**
- GS ガソリンスタンド
  - LPG LPG製造所
  - CON コンビニエンスストアなど
  - 商 スーパーマーケットなど
  - ☎ 公衆電話

- 避難**
- 一時避難場所
  - 一時避難場所割り
  - 地域防災拠点（小中学校）
  - ▼ 浸水避難所
  - 広域避難所（高校）
  - 避難に注意が必要な道路（幅4.5m以下）

- 危険区域**
- 想定最大震度は全域 震度6
- ／ 浸水の恐れがある地域
  - 液状化の可能性が高い地域
  - 土砂災害警戒区域
  - 木造建築物密集地域（50m格子内で20棟以上で3/4以上）
  - 昭和55年以前木造建築物密集地域（50m格子内で50%以上）